

# 本学の包括協定に基づく2016年度プロジェクト実施報告

——伊那市新山地区および峰の原高原ペンション村インターンシップ事業——

磯 貝 政 弘

## Report on the implementation of the project in 2016 based on the comprehensive agreement between Nagano Prefecture and Atomi University

——On internship projects in Ina-city Niiyama area and Minehara Highlands Pension Village——

Masahiro ISOGAI

本学部では、2年生の必修科目「基礎ゼミナール」の単位を認定するための要件として、6日から10日間の学外実習参加が必須となっている。実施時期は原則として夏休み期間である。本稿は、そうしたなかから、3つの事例の実施概要と参加した学生たちの実習後の成長の姿を報告するものである。

### 1. 長野県伊那市新山（にいやま）地区「集落`再熟、実施モデル地区支援事業」

#### (1) 学外実習の概要

長野県と本学との包括協定に基づき、昨年から長野県内での学外実習を実施している。昨年の須坂市峰の原高原地区に続き、本年は伊那市新山地区で実施した。いずれの地区も長野県が「集落`再熟、実施モデル地区支援事業」対象として認定されたものである。この事業の趣旨は、「市町村と住民が一体となった、自分たちの暮らす地域の存続のための取組に対し」て県が補助金等、様々な形で2年間にわたって支援するというものである。

2年間のうち、初年度は「ビジョン策定期」であり、2年目は「ビジョンの具体化と事業への着手」と定められている。伊那市新山地区の事業は、今年が2年目にあたる。本学の学生5名に与えられた役割は、昨年度に策定されたビジョンに基づき、具体化された事業を首都圏の女子大生の視点から評価し、改善提案を行うというものであった。そのために2016年8月30日から9月4日までの6日間の現地調査をし、その間に調査結果の中間報告会を開催した。さらに12月10日に長野県庁、伊那市および新山地区の職員、関係者を前に本報告会を開催した。

本稿は、伊那市新山地区の現況を概説した後、学生たちによる現地調査と本報告会での発表内容の概要を報告するものである。

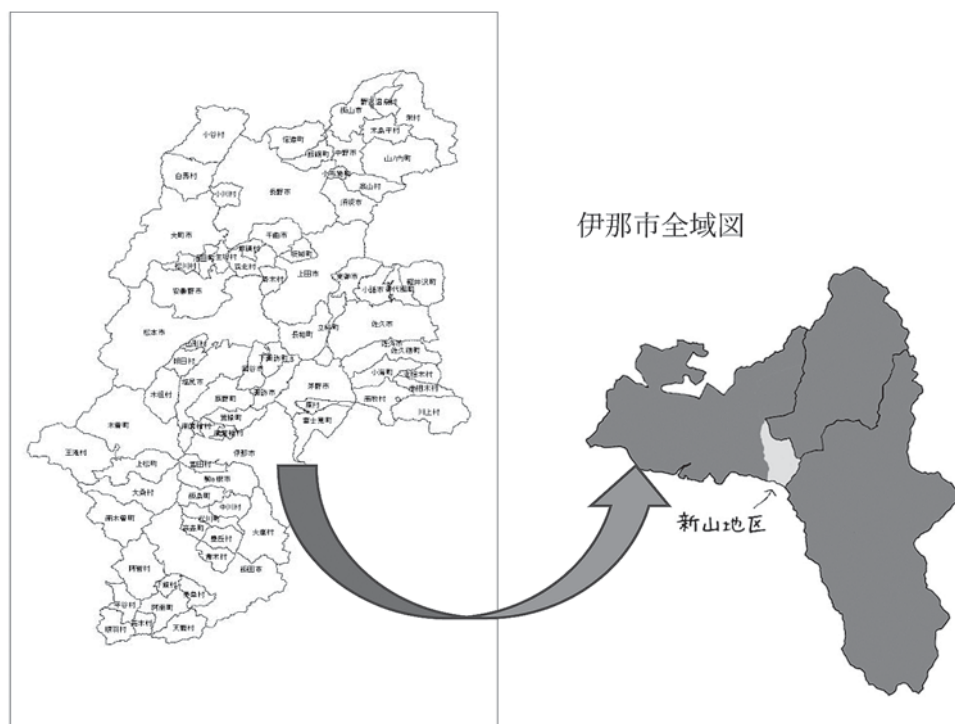
#### (2) 長野県伊那市新山地区の現況と課題

伊那市新山地区は、伊那市域のほぼ中央に位置する、三方を山に囲まれた標高600～1000mの丘陵地である。東の山麓地にはゴルフ場があり、西の高鳥谷（たかずや）山の山頂からは、中央アルプスや南アルプスの山々、天竜川が流れる伊那谷を一望することができる。また、地区には希少なハッチョウトンボの生息地「トンボの楽園」があるように、自然環境に恵まれた土地である。

しかし、人口7万人近い伊那市市街地中心部からは車でわずかに20～30分程度の位置にある。が、新山地区を構成する「上新山（かみにいやま）区」「北新（ほくしん）区」という2つの行政区を合わせても人口は700人足らず。地区内にコンビニもなければ、スーパーなど商業施設や商店もない。65歳以上の高齢化人口が全体の38%であるのに対して、15歳未満の人口構成比は10%を切っている。（平成28年10月1日現在）人口も、昭和57年（1982年）の865人から2割以上減少している。統計数値だけをみれば典型的な過疎の“村”である。

だが、私が訪れた9月2日、3日の新山地区は、農道を行き交う車や人の姿こそ疎らではあったものの、家々には

高齢化した村落に特有のどことなく荒廃した雰囲気はみられず、また田畑や里山の森にもしっかりと手入れが施されている様子がうかがえた。



出典：長野県庁 HP より

出典：新山定住促進協議会 HP より

今回の学外実習の受け入れ先であり、「集落“再熱”」事業の主体である「新山定住促進協議会」は、地区内の保育園、小学校、PTA や農業組合、市議会議員などによって構成される組織である。そして、投資顧問会社の役員や地元農業高校教諭など現役で活躍する人たちがリーダーに就いている。そうした人たちの力によるところが大きいと推察されるが、協議会の推進する事業には、情熱的な側面と現実的なビジネスを遂行するという側面が共存しているように感じられた。

この協議会の事業の目的は、そのホームページ (<http://niyama.org/index.html>) に、「新山両区（上新山と北新の2区）の活性化を図るため地域・行政・民間事業者等と協働して、住民がより安心して暮らせるような環境形成に役立てる」ことであると明示されている。そして、以下の具体的な事業内容が挙げられている。

1. 地域住民が将来にわたり安心して定住することが出来る環境作りに関する事。
2. UI ターンしやすい環境作りに関する事。
3. 新山の魅力の発信に関する事。
4. その他会の目的の遂行のために必要な事。

協議会の事業の成果として、3組の移住者が地区内に既に受け入れられている。それぞれ東京都、神奈川県、愛知県からのIターン組である。愛知県から移住してきた大竹さん一家が経営するヨーロッパ郷土料理と西洋民芸店「ル・プティ・マルシェ (le petit marché)」には、1日1組限定のキッチン付きコテージ「山小屋 mökki」が併設されており、インターンシップ初日の2016年8月30日から2泊、学生たちはここに宿泊した。

今回、本学の学生に委ねられた事業とは、協議会が推進しようとする2つの事業テーマについての評価であった。具体的には、①高齢化した新山地区住民を対象にした「ITと路線バスを活用した買い物サポート」事業の仕組みそのものの評価と改善点の抽出、②地区の新たな特産品（地区の竹などを活用した観賞用炭、鹿肉を使った食品など）

に対する評価であった。

## 2. 長野県伊那市新山地区での学外実習の記録

### (1) 学外実習の日程と実習内容

#### ① 事前学習

2016年7月12日（火）18時から、長野県庁地域振興課土屋明久氏、伊那市移住・定住コーディネーター水口航氏をお招きし、本学新座キャンパスにおいて事前学習会を開催した。伊那市および新山地区の概況と現地実習のスケジュール、学生の役割などについての説明、終了後に実習の成果報告会の告知の後、質疑応答が行われた。

また、県外から来県するインターンシップ生を対象にした旅費補助（4万円を上限に、交通費に対して支給）の申請方法などに関する説明もされた。

#### ② 現地実習

現地実習は以下の日程で実施された。

8月30日（火）

14：30 伊那バスターミナル集合

15：30より伊那市役所にて結団式・オリエンテーション

プチマルシェ宿泊

8月31日（水）

午前中 新山地区内各所視察

12：00 プチマルシェにてバーベキューで昼食

14：00 プチマルシェにて、竹炭の会の指導による炭焼き体験

プチマルシェ宿泊

9月1日（木）

終日 新山地区集落センター及び伊那市街地の「通り町」にて「いきいきマーケット」体験

一般家庭にてホームステイ

9月2日（金）

午前中 住民聞き取り、農業体験など

午後 上伊那農業高校にて鹿商品（鹿ジャーキー試食、鹿肉を使った餃子制作と試食）体験と高校生との交流

一般家庭にてホームステイ

9月3日（土）

9：00～15：30 「田舎暮らしモデルハウス」にて報告会で使用するプレゼンテーション資料作成昼食

16：00 新山集落センターにて新山定住促進協議会の皆さんへの実習成果の報告会と懇親会

農家民宿「ふだん着」にて宿泊

9月4日（日）

終日 高遠城址公園、道の駅南アはせ、みはらしファームなど視察

農家民宿「ふだん着」にて宿泊

9月5日（月）

10：00～12：00 伊那市役所にて解団式

伊那バスターミナルにて解散

#### ③ 学外実習報告会

2016年12月10日（土）13：30～15：30、本学新座キャンパス3156教室において、長野県須坂市峰の原ペンション村インターンシップ事業と合同で学外実習報告会を開催した。これに先立ち、11月30日の5限目に新座キャン

パス内グリーンホールにて、報告会資料について検討会を開催した。

報告会には、長野県企画振興部地域振興課活力創出係土屋明久氏、伊那市総務部地域創造課係長伊藤透氏、伊那市移住・定住コーディネーター水口航氏、伊那市新山地区定住促進協議会住まい整備部会長倉澤秀一氏、地域おこし協力隊金子靖子氏が出席した。

当日、学生たちが使用したプレゼンテーション資料は P149～P151 に掲載。

## (2) 今回の実習の成果と課題

この学外実習に参加した学生 5 名のうち 2 名は長野県に自宅のある学生であった。それぞれの自宅は塩尻市と上田市に所在する。いずれの学生も、同じ県内とはいえ伊那市とは馴染が深いわけではない。その他 3 名は首都圏で生まれ育った学生たちで、伊那市は初めて訪れた土地であった。5 名ともに伊那市はおろか、新山地区は初めて訪れる土地であったといつてよい。こうした学生たちが、一週間足らずの滞在を経験しただけでどこまでの経験を得られ、新山地区に何らかの共感や反感を抱くことができるようになるのだろうか。そして、この未知の土地で試みられようとしている実験に対して、的確な評価を下すことが出来るのだろうか。

このような心配は、結果として杞憂に過ぎなかった。

第一の成功は、一般家庭や農家民宿に泊まって、地元の普通の生活を間近に見ること、知ることが出来たことと同時に、愛知県から移住してきた家族のライフスタイル、人生観を知る機会を得たことではないかと考えている。第二の成功は、そうした人々ともに体験した伊那の山里の生活文化が、“驚異”であったことは間違いなかっただろうが、それらを“楽しめてしまうことができる”だけの柔軟な感性を 5 名の学生が持っていたことであろう。ホームステイ先では「蜂の子」や「鹿肉のカツレツ」に挑戦し、それらの味わいをしっかりと覚えてきたという。また、一緒になって鹿肉の餃子を作った上伊那農業高校畜産科の生徒たちとの交流も、新鮮な驚きだっただろう。生まれ育った土地で、卒業後も地道に生きていこうとする思いを知る機会が得られたことも貴重な体験になっただろう。また、こうした高校生たちを指導してこられた境久雄先生の熱烈な人柄と先生に目の前で打っていただいた蕎麦の味も記憶に深く刻み込まれたのではないだろうか。

上伊那農業高校の生徒と鹿肉餃子を作る実習生たちと「鹿ジャーキー」(筆者撮影)



そして何よりも大きな成果は、新山地区の人々の起業家のような澁刺とした心意気のようなものに触れたことであり、ようやく自分の夢見たライフスタイルを実現できそうな土地を見つけた移住者たちの満ち足りた野心的な表情を目の当たりにできたことではないだろうか。社会というものが、人によって構成されており、それぞれの人が生き生きとしていれば社会も活気づく、という原点を見たことにあるのではないだろうか。この一週間足らずの間に、差し入れとして頂戴したトマトやスイカ、漬物の味を学生たちは生涯忘れないだろう。12月の最初の土日で新山地区を 2 人の学生が再訪したそうだが、都合さえ合えば 5 人揃って出かけたはずである。

一方、課題として挙げられることは、すべて行政が主体となって進めている事業のなかに見いだされたようだ。移住の下調べに体験的に滞在してもらうことを目的としているはずの「田舎暮らしモデルハウス」に寝具が用意されて



いないこと（レンタル布団の斡旋はされている）、新山地区の老人の真のニーズを把握しないまま始めようとしている「いきいきマーケット」などがその代表的事例といえるだろう。この2つの事業の問題点については、12月10日の報告会資料で学生たちが鋭く指摘をしている。

過疎や高齢化に悩む地域の活性化は、観光を学ぶ学生にとって非常に身近なテーマの一つとなっている。しかし、地域活性化の成功事例は少ない。そうしたなかで、伊那市新山地区で動き始めている活動やそれらを担う人々と出会えたことだけでも、今回の学外実習の成果は予想外に大きかったと思っている。このような貴重な機会を学生たちが持つことができたのも、新山地区定住促進協議会の皆さんや地域おこし協力隊の金子靖子氏、市役所の水口航氏らのご尽力の賜物である。この場を借りて深く感謝したい。

12月10日の報告会（撮影：筆者）



### 3. 2年目を迎えた須坂市峰の原高原ペンション村インターンシップ事業

#### (1) 2年目の峰の原高原ペンション村インターンシップ事業の概要

須坂市峰の原高原地区ペンション村インターンシップ事業は、昨年度で長野県の「集落“再熱”」事業が終了したこともあり、本年度はそのフォローアップ事業といった位置づけで実施された。

昨年度のインターンシップ事業は、6名ずつ2組の学生グループを9月上旬にそれぞれ6泊7日の日程で派遣するものであった。主たる目的は次の二点であった。

- ① ペンションの仕事を体験し、事業としての将来展望、後継者の育成を実現させるための対策を考えること
- ② 峰の原高原の観光地としての魅力向上策を考えること

この二つの目的を実現するために、ペンションでの仕事の合間に周辺の観光、散策を行ったほか、1日かけて須坂市内の観光資源視察も行った。その成果は昨年の「観光コミュニティ学部紀要創刊号」に掲載している。

さて、今年度のインターンシップを考える前提に、ペンション本来の仕事体験を通して、若い世代にペンション事業への就業、さらには経営参画を促すためのモチベーションを具体的に考えることを置いた。そのため、峰の原高原の最大の多客期である8月に実施することとした。さらに、実習期間は昨年度と同じく7日間としたが、異なる日程で1名ないし2名がそれぞれ1軒のペンションに滞在し、仕事することとした。そして、実習内容（仕事）は各ペンションのオーナーの裁量に委ねることとした。受け入れペンション名と、実習生の数、実習日程は下表の通りであった。

ペンション名	実習生数	実習期間
ペンション時空の杜	2名	8月5日～8月11日
あすなろペンション Pocket	2名	8月9日～8月15日
ペンションのいちご	2名	8月9日～8月15日
ペンション時空の杜	1名	8月18日～8月24日
KONG	2名	8月25日～8月31日

なお、伊那市新山地区のプロジェクトと同じく、7月12日（火）5限目終了後に新座キャンパスで事前学習会を実施したほか、12月10日（土）13時30分から15時30分まで伊那市と合同で報告会を実施した。いずれの催しにも峰の原高原観光協会協会長古川茂紀氏と須坂市役所総務部政策推進課信州須坂移住支援チーム係長加藤広明氏、長野県企画振興部地域振興課活力創出係土屋明久氏が参加された。

## (2) 学外実習の意義

学外実習によって期待される効果の第一は、実践的な経験を学生たちが積むことであろう。そして、第二に挙げられることは、積み上げられた経験に基づいて設定されたテーマに沿って、論理的に思考をする訓練の機会を持つことができることであろう。そして、第二の効果を生み出すために重要なことは、学外実習終了後に成果発表会を開催することだと思う。

さて、今回の実習では、繁忙期のペンションの仕事体験を中心に据えたこともあり、各ペンションの敷地の外へ出る機会がほとんど持てなかった。そうした条件もあって、学生たちの視線はペンションという業態の課題と展望に集中することになった。

草創期である1970年代から最盛期を迎えた80年代にかけて、ペンションはスキー、テニスなどのアウトドアスポーツ人気の大衆化によって支えられてきた。しかし、1990年代半ば以降の急激な社会構造の諸変化にうまく対応できないまま、客足の減少に加え、オーナーの高齢化と後継者不在という問題に直面することになる。

このような状況下で、リノベーションをどのように模索するべきか。これが今回の学生たちに与えられた最大のテーマだった、ということになる。そして、報告会では次の2点が提案された。

- ① 個々のペンションの個性、特徴の明確化
- ② 情報戦略の見直し

ペンションの個性、特徴ということについては、オーナーの技術（料理やパン、菓子など）、趣味（音楽、美術、工芸、動植物、昆虫、アウトドアライフ、スポーツなど）やペット同伴の可否、対象顧客（家族、高齢者、女性、若者など）などを明示して、旅行者の選択の便を図ることが提案された。

一方、情報戦略では、特に若い世代に向けた情報発信の手段として、ライン、ツイッター、インスタグラムの活用が提案された。

12月10日の報告会で発表する学生たち。（撮影：筆者）











資料2 伊那市新山地区 実習報告会資料



## 伊那市新山地区 × 跡見学園女子大学

2016.12.10学外実習発表会

小林美紅、佐々木マリナ  
中野沙耶、初見有彩、船橋美咲



### 炭焼き体験

【改善案】

- 地区内で炭づくりを経験したことのある人が少ない

インストラクターの育成

炭焼きキットの販売

親子で楽しめるような呼びかけ

- 簡易的な道具を利用する
- 待ち時間になにかできないか

### 学外実習の目的


- 新山地区の移住定住促進についての課題を若者目線で見つける
- 特産品などの評価
- 新しいアイデアの発見



### 炭焼き体験

【竹炭の活用】

- 防臭・消臭
- 除湿（床下に敷き詰めるなど）
- 焼き色を調整して工芸品をつくる
- 炭を活用した食べ物をつくる  
→ex)京都...炭焼きロール



### 活動内容

1日目：結団式・オリエンテーション

2日目：炭焼き体験、高鳥谷山見学

3日目：いきいきマーケット体験

4日目：上伊那農業高校にて鹿肉商品の試食

5日目：田舎暮らしモデルハウス見学、新山小学校にて星空観察

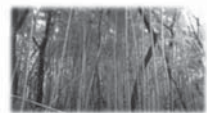
6日目：市内他地区との比較



### 炭焼き体験

【竹の活用】

- 流しそうめんなどのイベント  
→集落センターや新山保育園、小学校などで実施
- 遊具の製作、竹垣
- 箸、うちわ
- 竹提灯、竹灯籠



### 炭焼き体験

- 環境保全につながる
- 鑑賞炭→自由研究としても〇



### 高鳥谷山

たかずやさん

- 伊那谷、天竜川を一望  
→小中学生の地形(地理・地学)の勉強になる
- 南アルプス、中央アルプスが見られる  
天候によっては北アルプスも！



## いきいきマーケット体験

- ・「脳のいきいき教室」の日程にあわせて開催されている〇
- ・路線バスを利用した配達



## 鹿肉を使った料理、商品の体験

【課題】

- ・認知度

- ・食肉処理加工施設がない

・イメージ改善

- 地元の人...野で暮らしている鹿の姿を知っているため食べれない
- 都会の人...なじみがない

興味本意で食べられる



## いきいきマーケット体験

- ・通信障害が多い
- ・中継時間が短い
- ・集落センターに来られない方がいる
- ・会場の様子がわからない

- ・電波状況を整える
- ・中継時間の延長

- ・事前に買いたいものの集計
- ・写真付きのチラシの作成、配布

## 鹿肉を使った料理、商品の体験

【改善案】

- ・地酒と合わせて鹿をアピールする  
ex)ビアガーデンなどのイベント

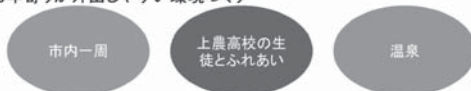
- ・上伊那農業高校ブランドを活用してアピールする  
ex)高校生レストランの開催

- ・料理のレパートリーを増やす



## バスの活用方法

- ・美術作品を車内に展示
- ・お年寄りが外出しやすい環境づくり
- ・結婚式、お見合いイベント
- ・名産品の販売



## 田舎暮らしモデルハウス

- ・新山地区を一望できる場所に建てられている

- ・バス、トイレ、キッチン用品、暖房器具など生活用品が備えられている

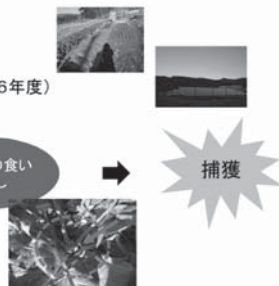
- ・木のぬくもりを感じることができる



## 獣害について

- ・被害額3億7600万円(平成26年度)
- ・鹿による被害

- ・森林環境破壊
- ・農産物の食い荒らし
- ・ジビエ利用率10%



## 田舎暮らしモデルハウス

【課題】

- ・寝具がない
- ・管理人がいない
- ・認知度が低い
- ・費用が高い
- ・生活プランがわからない

地元...キットハウス

【改善案】

- ・貸布団屋と連携する
- ・管理人を定める  
ex)自治会で当番制
- ・数年間の生活プランを提供する

## 鹿肉を使った料理、商品の体験



健康食、健康的にダイエットしたい人におすすめ

女性向け

## 田舎暮らしモデルハウス

- ・3泊4日までの「お試し田舎暮らし」

生活感を実感できるか

時期が限られる

ex)夏の長期休暇中

- ・「お試し田舎暮らし」以外での活用方法

子供の遊び場所

講習会

## 田舎暮らし体験の事例

### 【長野県信濃町】

- ・ 気軽さがある
- ・ 施設の利用手順がわかりやすい

### 【鹿児島県曾於市】

- ・ 田舎暮らし体験専用のWebページ  
(「曾於ぐらし そお移住応援プロジェクト」)
- ・ 体験・イベントスケジュールの掲示

19

## 新山地区について

- ・ 負の遺産が多い  
各区、部落ごとに集会所がある
- ・ 人口と役職のバランス
- ・ 茅葺職人、漆喰職人、建築士  
→新山地区の力だけで家を建てられる

個の力

声を聴く

24

## 市内他地区との比較

### 【他地区】

- ・ 「観光地」がある



### 【新山地区】

- ・ 「観光地」がない
- ・ 田園風景がある

とても貴重!!

観光施設などを作るのではなく、  
今ある景色をどう維持していくかを考えるべき

20

## 新山定住促進協議会

- ・ 人口700人のうち50~70人が加入

まずは自分たちが楽しむ  
受け入れ先が楽しければ、自然と新山を好きになる  
無理に誘わない、追わない

× 発展 → ◎ 継続

25

## インターンシップ中の活動を通して

- ・ 景色が良い
- ・ 星がきれい
- ・ のどか
- ・ 自給自足  
→ 日本らしさ

- ・ 街灯がない  
→ 夜の外出が危険
- ・ 寒暖差が激しい
- ・ 合宿所などの設置  
→ 体験館の活用



21

## 移住定住促進について

### 【新山地区民】 移住定住の体制◎

↓  
宣伝の  
仕方  
受け入  
れ方

### 【移住者】

- 〈 移住前 〉
  - ・ 移住 + 職(商売) = 不安
  - ・ 生活プラン/リズムを調べる
- 〈 移住後 〉
  - ・ 常会など積極的に参加
  - ・ 都会の考え方を押し付けない

都会 > 田舎 ではない

26

## 新山地区について

- ・ 上新山区と北新区に分かれている
- ・ 人口約700人  
(65歳以上...37.0%、15歳未満...9.7%)



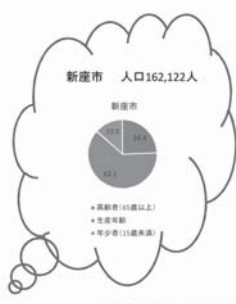
・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)



・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)



・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)



新産市 人口162,122人

新産市

65.3%

14.5%

20.2%

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

・ 高齢者(65歳以上)  
・ 生産年齢  
・ 年少者(15歳未満)

22

## どんな生活をしてみたいか

- 動物をたくさん飼う
- のんびり過ごす
- 大声を出す
- 周りの目を気にしない
- 時間に追われない

27

## 新山地区について

- ・ 新山小学校、新山保育園を中心とした地域づくり  
→ 地区全戸がPTAに加入  
児童がいなくなっても会費を払っている  
→ 移住した場合、PTA加入という縛りがでてる?
- 閉園していた保育園を再開園した実績

新山小学校、新山保育園は新山地区  
にとって必要不可欠!!



23



ご清聴 ありがとうございました。

28



資料3 須坂市峰の原高原インターンシップ 報告会資料

